

1 津山市城西伝統的建造物群保存地区

(1) 所在地 津山市坪井町、上紺屋町（かみこうやまち）、宮脇町、西今町、西寺町、茅町、鉄砲町（てっぽうまち）及び小田中の各一部

(2) 面積 約12.0ヘクタール

(3) 概要

津山市は岡山県北東部の美作地方に位置する。津山は古代から美作地方の中心地で、慶長8年（1603）に森忠政が城と城下を築いた。城下町は、城を中心に南寄りを東西に通る出雲往来に沿って広がり、武家地は城の近辺に、町人地は出雲往来沿いに、寺町は町人地外側に設けられた。近代には、鉄道の開通により旧城下町の南西に駅が開業し、旧城下町西部は「津山銀座」と呼ばれ賑わいをみせ、現在も出雲往来沿いを中心に伝統的な建造物が多く残る。

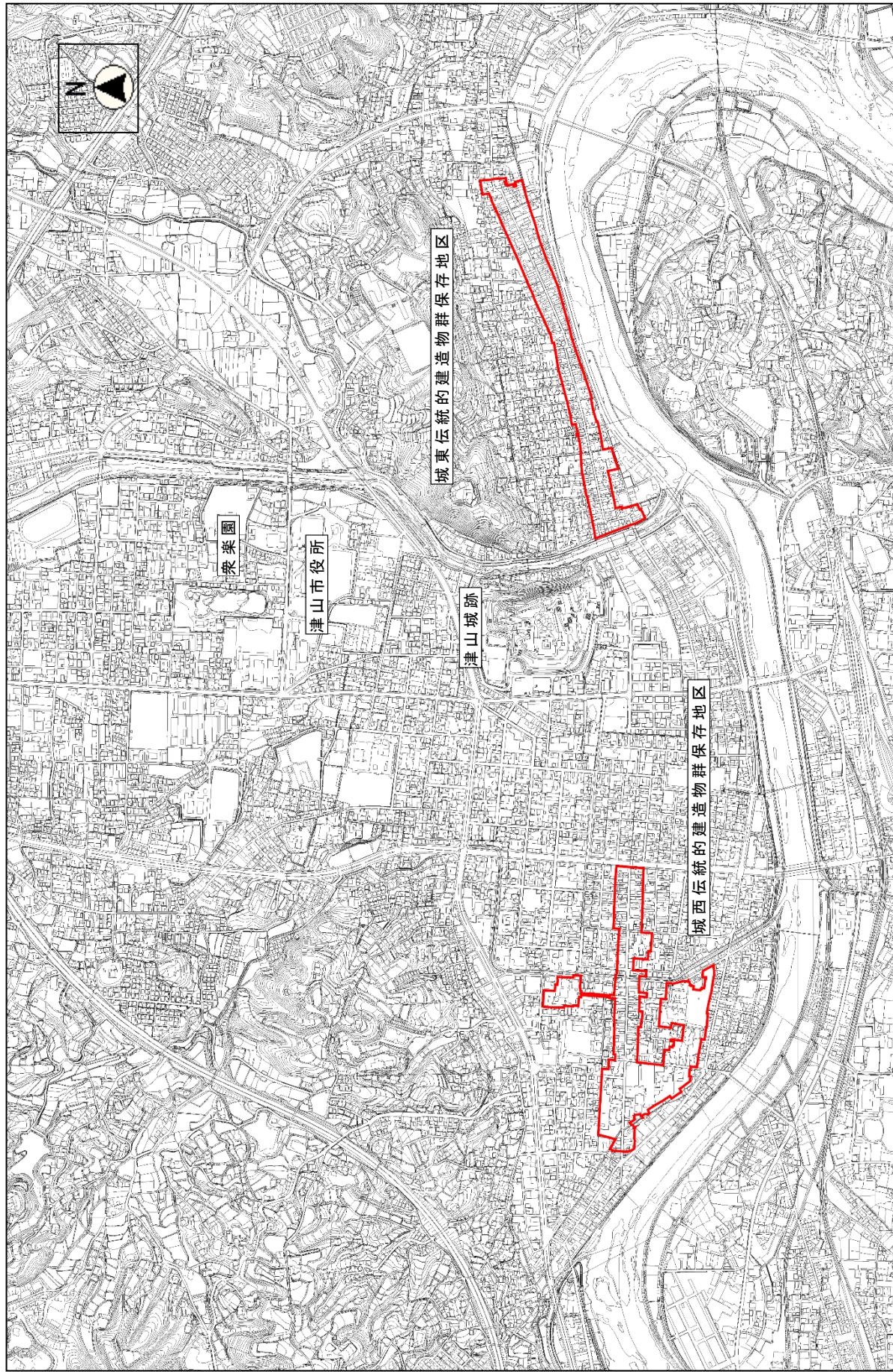
保存地区は、城下町西部の寺町と、出雲往来沿いの商家町からなり、往来沿いには大規模な寺院や伝統的な町家が建ち並ぶ。寺町は近世の町割を良く残し、寺院は出雲往来及び南北街路に面して寺地を占め、保存地区内には築城以来17世紀半ばまでに所在した15箇寺中13箇寺が残る。境内は周囲を塀で囲み、街路に面して楼門等を構える。寺院本堂は、17世紀前期から近代に至る各時代、各宗派のものが良く残り、藩主の菩提寺をはじめ、境内全体として江戸時代の様相を良く伝える。商家町は往来沿いの短冊形の敷地に、切妻造（きりづまづくり）平入（ひらいり）、棧瓦葺（さんがわらぶき）、二階建てで、二階に袖壁を設けた主屋等、江戸時代後期から昭和30年代までに建てられた伝統的建造物が多く残り、近代の銀行建築である作州民芸館（旧土居銀行津山支店）とともに近代の繁栄を見ることができる。

津山市城西伝統的建造物群保存地区は、津山城下町の西部に成立、発展した寺町及び商家町である。出雲往来を軸とした近世以来の地割の姿を良く保持し、寺町は、藩主の菩提寺をはじめ、江戸時代の様相を伝える伽藍とともに、慶長期以降各時代、各宗派の寺院建築が良く残る。また、商家町は、往来沿いに近代の発展を示す伝統的な町家が連続して残る。江戸時代から近代にかけて津山城下町西部に発展した寺町、商家町の歴史的風致を良く伝える。

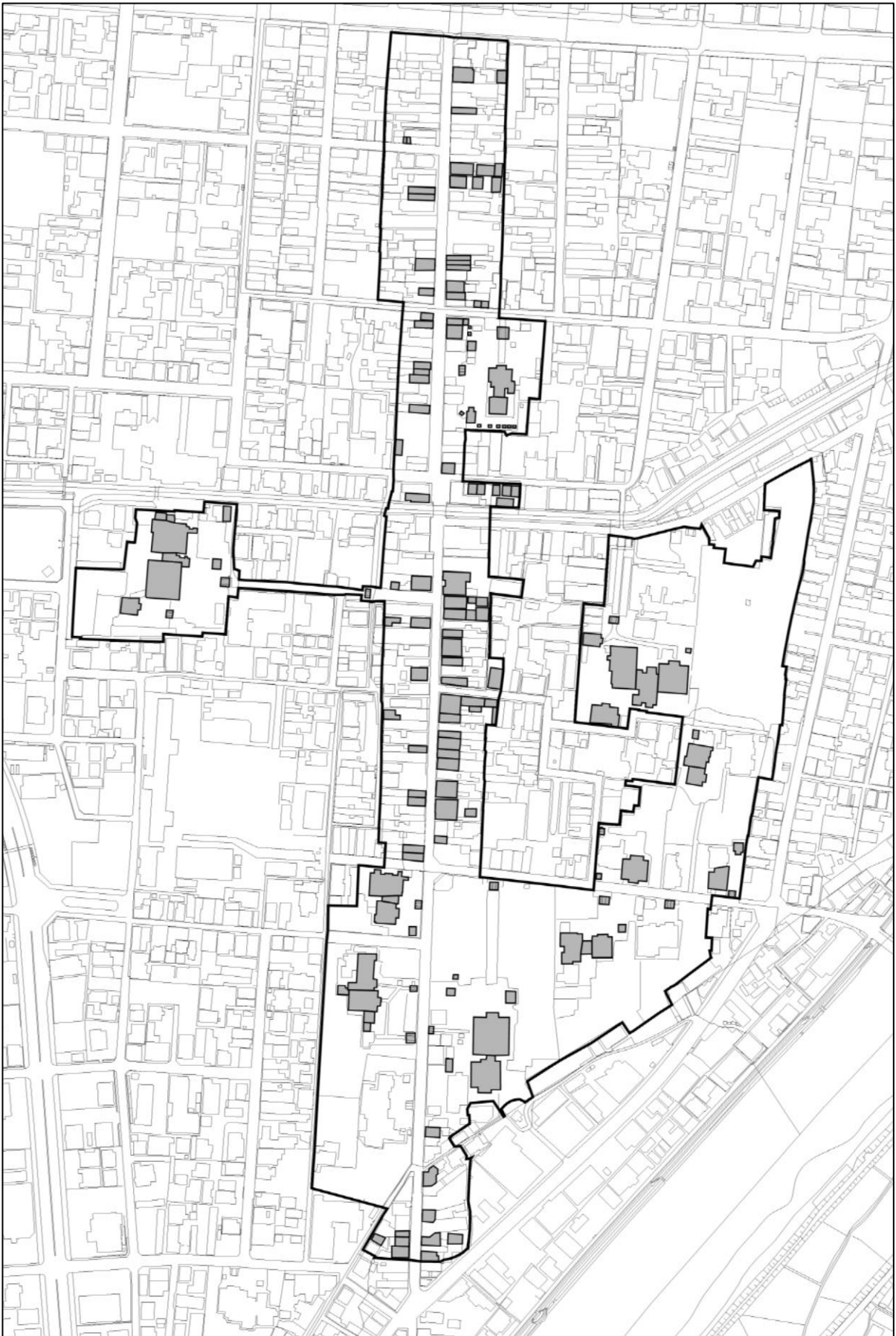
(4) 選定理由

(二) 伝統的建造物群及び地割がよく旧態を保持しているもの

津山市城東・城西伝統的建造物群保存地区位置図



津山市城西地区伝統的建造物保存地区範囲図





【写真1】寺町の街路沿いに寺院が建ち並ぶ



【写真2】出雲往来沿いの伝統的な町家

(写真1、写真2共に提供は津山市)